

コロナと どう向き合う

長崎大熱帯医学研究所教授 山本太郎氏

テーマ「Withコロナ社会の見取り図
ウイルスとの共生の視点から」

岐阜新聞・岐阜放送懇談会の9月合同例会は17日、岐阜市長良福光の都ホテル岐阜長良川で開かれ、長崎大熱帯医学研究所教授の山本太郎さんが「Withコロナ社会の見取り図 ウイルスとの共生の視点から」をテーマに講演。世界中で蔓延している新型コロナウイルスとの共生について「社会からの根絶はできない。感染症の歴史を振り返り、どう向き合うか考えるべき」と訴えた。

岐阜新聞・
岐阜放送
懇談会

＜9月合同例会＞

山本さんは新型コロナウイルスを重症化リスクのあ

る他のウイルスと比較し「SARS（重症急性呼吸器症候群）ウイルスなどとは異なり、無症状感染を引き起こすため隔離による感染制御は困難なウイルス」と解説した。約100年前に世界中で流行したスペイン風邪を例に挙げ「当時の人口の20

30%が免疫を獲得して収束に向かった。コロナも集団免疫ができれば同じ道をたどるのではないかと見解を提示。「感染対策を最小限にすれば感染者が一挙に増え、集団免疫獲得が前倒しされて早く収束を迎えるかもしれないが、医療な

ど社会インフラへの影響も大きい。緩やかな流行に抑えながらの集団免疫獲得を目指し、医療崩壊を防がなければならぬ」と述べた。さらに「ウイルスを倒そうと意識するより、共生しながら重症者を守ることを第一に考えるべき」と呼び掛けた。

また、中世の欧州で大流行したペストが封建社会の衰退をもたらしたと述べ「パンデミック（世界的大流行）は社会に変革を起こすことがある。コロナ禍ではテレワークやオンライン会議など、IT社会がより広まった」と話した。



新型コロナウイルスとの向き合い方について講演する山本太郎さん＝岐阜市長良福光、都ホテル岐阜長良川

次回の案内

▷岐阜10月例会＝10月26日（月）正午から、岐阜市の岐阜グランドホテル。講師は神戸大大学院法学研究科教授の簗原俊洋氏。テーマは「平常への復帰？ 2020年米大統領選の行方と今後の日米関係」。

▷西濃10月例会＝10月19日（月）正午から、大垣市の大垣フォーラムホテル。講師は立教大法学部教授の倉田徹氏。テーマは「香港民主化デモと東アジアの未来」。

◆岐阜新聞・岐阜放送懇談会（岐阜、西濃）は会員制です。入会申し込み、問い合わせは岐阜新聞社統合編集局内の懇談会事務局、電話058(264)1166。